

# ① いなっぴー活動事業

経済環境部商工観光課  
観光・労働グループ

## 1 事業概要

施 策 番 号	3-6
施 策 名	観光
施 策 目 標	市外から多くの方が観光に訪れ、にぎわうまちを目指す。
事 務 事 業 名	いなっピー活動事業
担 当	経済環境部 商工観光課 観光・労働グループ
開 始 年 度	平成19年度
法 的 根 拠 等	稲沢市マスコットキャラクター使用取扱要綱
事 業 の 目 的	平成20年に市制50周年を迎えるにあたり、記念事業の啓発・宣伝や、稲沢市をより多くの方にPRすることを発端として「いなっピー」が誕生し、以降市のPRを目的として活動している。
事 業 費 (人件費相当額を含まず。)	平成26年度予算額 5,275千円 平成25年度決算額 2,335千円
人 員	平成26年度 1.2人(人件費相当額 7,800千円) 平成25年度 1.2人(人件費相当額 7,800千円)

## 2 事業内容

平成 20 年に市制 50 周年を迎えるにあたり、記念事業の啓発・宣伝や、半世紀を迎えた稲沢市をより多くの方に PR するため、公募により平成 19 年に市マスコットキャラクター「いなッピー」が誕生した。現在、お祭り等の各種イベントに登場し、稲沢市を PR している。頭は稲沢市特産の植木とアシタバ、体全体はイチヨウ、はちまきとフンドシは国府宮はだか祭をイメージしており、市の代表的な要素を持っている。困っている人はほっとけない主義で、子どもからお年寄りまで皆のことが大好きなので、いなッピーも子どもからお年寄りまで皆から愛情を持って接していただいている。

また、いなッピーは元気な男の子で、ほかのキャラクターとも仲良しになり、今までゆるキャラ界初のダンスチーム「ちーむ ふわふわ隊」のメンバーになったり、平成 23 年度には滋賀ふるさと観光大使「西川貴教さん」のキャラクターであるタボくん達と「タボくんバンド」を結成し、県内外での数々のイベントに出演し、多くのファンに支えられながら、稲沢市の PR に努めている。

なお、いなッピーのデザインを使用してもらうため、使用承認事業を行っているが、広く活用し

てもらうため、使用料は無料に対応している。平成 25 年度には、いなっぴーの図と呼称について商標登録を行い、いなっぴーを稲沢市が永続的に使用できるよう体制を整えた。

(1) 着ぐるみによる活動

ア いなっぴー着ぐるみ貸出承認申込書（様式は市ホームページからダウンロード可）の提出  
→貸出承認書の送付

※申込書の提出前に、着ぐるみを使用可能かどうか、事前に確認していただいている。

イ 市職員による着ぐるみ活動事業

平成 25 年度 90 日

平成 24 年度 82 日

ウ 団体への貸出事業

平成 25 年度 81 件

平成 24 年度 58 件

## エ 着ぐるみ製作

平成 19 年度	1 体目
平成 20 年度	2 体目（1 体目より小型化）
平成 22 年度	3 体目（手が握れるようにした。）
平成 24 年度	4 体目（目の開閉ができるもので、ご当地キャラクターとしては初）
平成 26 年度	5 体目（目の開閉ができるもの）製作中
	6 体目（貸出専用）製作中

## (2) デザイン使用承認事業

### ア 申請書の提出（様式は市ホームページからダウンロード可）

- ・ 稲沢市マスコットキャラクター「いなっピー」使用承認申請書  
→使用承認通知書の送付
- ・ 稲沢市マスコットキャラクター「いなっピー」使用期間更新承認申請書  
→使用期間更新承認通知書の送付

- ・ 稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」使用変更承認申請書

→使用変更承認通知書の送付

#### イ デザイン使用承認件数

平成 25 年度      87 件

平成 24 年度      88 件

#### ウ 申請時の注意事項

- ・ 1 回の申請で 3 年間まで有効。
- ・ 「©稲沢市 いなッピー」または「©Inzawa City INAPPY」の標記を付すこと。

### 3 事務事業イメージ図

1 着ぐるみによる活動

- ・ 商工観光課職員による活動
- ・ 団体への貸出による活動

他キャラとの絆

市内イベントに  
いなっピーの  
お友達が集合！！

2 デザイン使用承認事業

露出度上昇による  
宣伝効果

他キャラとの活動による  
相乗効果



©稲沢市 いなっピー

いなっピーの認知度向上  
||  
稲沢市の認知度向上

キャラ、市（イベント・  
特産品）に興味を持つ

イベント来場者数の増加  
稲沢市への来訪者の増加

経済効果のUP

#### 4 1次評価の考え方

妥当性の観点	第5次稲沢市総合計画の魅力発信戦略として、稲沢市を代表する要素を持った「いなっピー」の市内外での情報発信は、本市の認知度向上に係る効果を上げている。
有効性の観点	ご当地キャラクターのブームは続いており、年齢を問わず、市内外のたくさんの方が「いなっピー」に対して愛着を持って接しており、いなっピーが活動することで市のPRに繋がっている。
効率性の観点	着ぐるみに入って活動しているのが市の正職員であり、人事異動の対象となるため、アクターとしての人員の確保が必要である。また、将来的に「いなっピー」の所管を市から観光協会に移行させていく等の見直しが必要である。
今後の方針	いなっピーは市内外で活動しているが、イベント時以外にも「いなっピー」を目にすることができるよう、デザイン使用の機会を増やしていく。



**稲沢市  
事務事業  
評価シート**

事業番号  
事26-7

事務事業名	いなッピー活動事業						
担当部局	経済環境部	担当課	商工観光課	担当グループ	観光・労働グループ		
担当連絡先	0587 - 32 - 1111 (内線 272)				会計区分	一般会計	
施策番号	3-6				予算 費 目	款	商工費
施策名	観光					項	商工費
施策目標	市外から多くの人が観光に訪れ、にぎわうまちを目指します。					目	観光費
関連事業名	-					事業	観光活動費

a1:事務事業の概要

事業期間	H19年度 ~ 終期末設定		
根拠法令等	法律	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	名称(稲沢市マスコットキャラクター使用取扱要綱)
	条例要綱等	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
実施手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金		
事業の概要	稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」のデザイン及び呼称の申請・承認、着ぐるみ等の作成、着ぐるみの貸し出し、市内外イベントへ		
	委託・補助金等の内容	いなッピー着ぐるみ、いなッピー音頭等作成委託	
事業の目的 (施策との関連性)	平成20年に市制50周年を迎えるにあたり、記念事業の啓発・宣伝や、稲沢市をより多くの方にPRすることを発端として「いなッピー」が誕生し、以降市のPRを目的として活動している。		
事業の対象(者)	市内外の人々	対象(者)数	- (単位) 人
現況と課題	いなッピーの認知度は高まっており、様々な事業やイベントに参加して、ダンス等を披露している。今後、アクターとしての職員の後継者を見つけていくのか、マスコットキャラクターとしての活用方法を見直していくのか、その対応が課題である。		

a2:事業目的の達成に向けて【ロジックモデル】

活動・手段(まず何を実施するか)	活動・手段指標(どの程度)									
いなッピーを様々な場面で活用する(市内外イベントへの参加等)。	指標名	単位・指標式		24年度	25年度	達成率		26年度	27年度	
				職員による着ぐるみ稼働日数	日			目標	-	-
				実績	82	90				
	指標名	単位・指標式		24年度	25年度	達成率		26年度	27年度	
				目標				目標		
				実績						
↓										
中間成果(その結果、対象(者)はどうなるか)	成果指標(どの程度)									
いなッピーを多くのかたに見ていただくことで、稲沢市のマスコットキャラクターとしての認知度が高まり、市の認知度が向上する。	指標名	単位・指標式		24年度	25年度	達成率		26年度	27年度	
				デザイン使用承認件数	件			目標	100	100
				実績	88	87				
	指標名	単位・指標式		24年度	25年度	達成率		26年度	27年度	
				目標	60	60	135%	目標	100	100
				実績	58	81				
↓										
最終成果(その結果、市(市民)全体としてどうなるか)	成果指標(どの程度)									
市のイベント開催時の来場者数(市外からの観光客含む)が増える。	指標名	単位・指標式		24年度	25年度	達成率		26年度	27年度	
				市内イベント来場者数	人			目標	800,000	820,000
				実績	724,851	718,032				
	指標名	単位・指標式		24年度	25年度	達成率		26年度	27年度	
				目標				目標		
				実績						

a3: 事業に必要な経費

コスト把握(手段実施にいくらかかるか)		(単位:金額は千円、職員数は人)				単位当たりコスト	
費目	内容	24年度	25年度	26年度	27年度	平成26年3月31日現在	
コスト	委託料	いなッピー着ぐるみ等作成委託	1,113	0	1,383	0	人口 138,399 人 ⇒ 市民一人当たりコスト 73.22 円
	補助金	-	0	0	0	0	世帯 52,181 世帯 ⇒ 一世帯当たりコスト 194.21 円
	その他	消耗品、旅費等	1,368	2,334	5,595	2,179	
	人件費	従事職員数×6,500千円	7,150	7,800	7,800	7,800	事業の対象(者)数 対象 - 人 ⇒ 対象単位当たりコスト - 円
従事職員数		1.10	1.20	1.20	1.20		
計		9,631	10,134	14,778	9,979		
収入	国・県支出金	-	0	0	0	0	特記事項 平成26年度は、いなッピー着ぐるみ(2体)作成、公用車へのラッピングを行う。
	その他	-	0	0	0	0	
差引市税等		9,631	10,134	14,778	9,979		

b1: 個別評価

Side b

個別項目		評価観点	評価(3高~低1)		
妥当性	目的妥当性	1: 事業の目的は、上位施策の実現につながっているか?	⇒ 3	上位施策の実現のために不可欠である	5
	市の関与	2: 国・県・民間事業者との役割分担や市民活動のあり方等から、市が実施することが妥当であるか?	⇒ 2	市と市民・民間事業者等とで協働すべきである	
有効性	社会環境への適合性	3: 事業の目的等は、社会経済情勢の変化など時の経過に適切しているか?	⇒ 3	社会環境に適合している	9
	市民ニーズ等	4: 利用者・対象者の推移等からみて、市民ニーズは低下していないか?	⇒ 3	市民ニーズは低下していない	
	進捗度合い	5: 事業の成果は上がっているか?	⇒ 3	成果が上がっている	
効率性	活動・手段の最適性	6: 活動・手段は、最適なものとなっているか?	⇒ 2	活動・手段に見直しの余地はあるが概ね妥当である	7
	受益者負担	7: 受益者の費用負担(補助金・負担金等は、補助・負担割合)は、社会経済状況や物価の推移などに照らして適切であるか?	⇒ 3	負担割合(負担なしを含む)は適切である	
	コスト削減	8: 事務の見直し等による従事時間の縮減やコスト削減の余地はないか?	⇒ 2	コスト削減を検討する余地がある	



b2: 総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)	【総合評価・記号の定義】
	<b>B</b>	いなッピーによる稲沢市のPR活動については、最終的には市への来訪者や、市の特産品等の販売収入を増やして、経済を活性化させていくことが目的である。そのため、来訪時に対応できるよう、「いなッピーグッズ」の充実や、いなッピーに親しんでもらえる受入体制の整備が求められる。	A: 計画どおり事業を進めることが妥当である B: 事業の進め方などに改善が必要である C: 事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D: 事業の廃止・休止の検討が必要である



b3: 改革・改善計画

改革・改善の方針	事業の方向性	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 統合・縮小 <input type="checkbox"/> 市民協働・民間委託 <input type="checkbox"/> 廃止・休止
	投入するコスト	<input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 投入しない
これまでの取組状況	現在の「いなッピー」の活動内容としては、市内外のイベントへの出演に重点が置かれているが、いなッピーを市内外の随所に掲示するなど、市のマスコットキャラクターとして永続的に活動できるようにしていく。	
今後の実行計画	市内の園児や児童が「いなッピー」を目にすることができる環境を整え、また、市内公共施設を中心として、「いなッピー」のデザインを随所に使用できるよう、関係課等に働きかけていく。また、イベント出演に係る職員の対応方法について検討していく必要がある。	